熊本水頼「教」の思い出

堀 洋一（東京理科大学教授，東京大学名誉教授）

後藤洋三さんによれば，熊本先生がご自身でしたためられた略歴には「平成 16 年（2004）10 月精密工学会生体機構制御・応用技術専門委員会設立同委員長，平成 23 年（2011）1 月電気学会へ組織移行して現在に至る」とあるという。そうです，それはよく覚えている。そして，小生が初めてお会いしたのは，精密工学会時代の 2005 年度の暮れのようである。もう 20 年が経っている。

電気学会に移行する前後から，慶応大学の大西公平先生一派のパシリとして，熊本教教祖様が東京に来られれば，しょっちゅうお会いするようになった。自分も含め，呉世訓，吉田憲吾など，かなり多くの学生がその毒牙にかかり，すっかり洗脳されて，二関節筋の研究をした。

電気屋は，ロボットの手足は関節モータの強いフィードバック制御によって，どんな機構であろうと何でもできると思っていたはずである。機構そのものが重要なのだという考え方は，とくにリハビリ支援ロボットには役に立つだろうと思えた。この考え方は，シーラカンスやナメクジウオを持ち出すまでもなく，太古の昔からあった。にもかかわらず新鮮だった。リニアアクチュエータを使って二関節筋ロボットを作るんだ！と息巻いていたが，結局あまりいいものはできなかった。

先日，大西さん，後藤さんとオンラインでお話しした。「京大を去ったあと，熊さんが東京でこんなアクティビティを築いていたとは知らなかった。二関節筋研究にかける衰えなき情熱を改めて認識した。その情熱が研究会に集まった若手研究者を鼓舞するところがあったとすれば，熊さんは大変幸せな時間を過ごされたのだろう。」というお言葉をいただいた。過分のお言葉に涙が出そうになる。自分は熊本先生の人生のほんの一部に同席しただけである。

熊本先生は，小さなことには目もくれず，何が本質かを考えて突き進むぶっ飛んだ人で，そうそう出る人物ではない。今の日本には強く求められているカリスマ性を持った人だった。私とは 30 歳ぐらい離れていたと思うが，まったく気にしないで友人のように接してくれた。

熊本先生は，学士会館を定宿にし，1F 奥のバー THE SEVEN'S HOUSE にチーバスリーガルのボトルを常備していた。いつでも飲んでいいぞ，というお言葉に甘え，いいボトルがあるんだ，なんていいながら数人で陣取って遠慮なく飲んでいた。いい時代だった。先生が来られると，チンザノをまぜて，ロブ・ロイというカクテルにした。吉田憲吾が気に入られて，いつも作らされていたのを昨日のことのように思い出す。バーの人も，熊本先生のボトルですね，と阿吽の呼吸だった。学士会館は改修に入ってしまった。THE SEVEN'S HOUSE は復活するのだろうか。

あるとき同じように飲んでいたら，先生ご夫妻が突然現場に現れて，「堀くん何やってんだ！」と大声でおっしゃったときには本当にビビった。ボトルを叱られたのかと思ったが，上の階でやっていた東大電気系の宴会のことを聞かれたのであって，ボトルのことなどはどうでもよかった。チーバスは空にしたら必ず補充を忘れないように気をつけていたが，先生はご存知だったかな？今となっては聞くよしもない。

熊本先生は海軍機関学校（舞鶴）に入校，その後，改称された海軍兵学校舞鶴分校を卒業されたと聞く。たしかに海軍らしいシャキッとした格好良さがあった。小生は，愛媛今治藩士の末裔で，江田島にも近く，旧海軍兵学校を訪問したりもする。世界情勢が不安定，不穏な中，気骨のある熊本先生のような政治家が現れてほしいと思うのは，小生だけではあるまい。

ぼ〜っと生きていると，先生がいきなり現れて「堀くん何やってんだ！」と言われそうな気がする。夢の中で，飲んだらちゃんともう１本入れています，なんて言いそうになるが，「そんなことはどうでもいい，去勢されたような今の日本をなんとかせい！」とどつかれるんじゃないか，とこれは本当にビビっている。

御冥福を祈ります。合掌。

研究会にて（2007.7.13）「そうだよ，お前いいこというじゃねえか」

学士会館にて（2011.7.12）「二関節筋体系だよ！」

学士会館にて（2011.7.12）「先生，お手々が。。。」